

第2回国立大学法人情報系センター長会議議事録

開催日時：平成19年11月2日（金） 14：00～17：00

開催場所：宇都宮ポートホテル グランドボールルーム

出席者：

文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室長 井深 順二

文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室学術情報第二係 布川 宏平

室蘭工業，帯広畜産，弘前，岩手，秋田，山形，福島，茨城，筑波，筑波技術，群馬，
埼玉，千葉，東京医科歯科，東京外国語，東京学芸，東京農工，東京工業，お茶の水女子，
電気通信，一橋，横浜国立，新潟，長岡技術，上越教育，富山，金沢，福井，信州，
北陸先端科学技術大学院，山梨，岐阜，静岡，浜松医科，名古屋工業，豊橋技術科学，三重，
滋賀，滋賀医科，京都教育，京都工芸繊維，大阪教育，神戸，奈良教育，奈良女子，和歌山，
鳥取，島根，岡山，広島，山口，徳島，鳴門教育，香川，愛媛，高知，佐賀，長崎，熊本，
大分，宮崎，鹿児島，鹿屋体育，琉球，宇都宮の65大学のセンター長（代理者を含む。）

配付資料：

1. 第2回国立大学法人情報系センター長会議資料
2. 文部科学省説明資料
3. 議事資料

「第2回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議及び第11回学術情報処理研究集会報告」

「第19回情報処理センター等担当者技術研究会プログラム等」

「国立大学法人情報系センター協議会平成19年度要望事項（案）等」

「第2回国立大学法人情報系センター長会議への要望」

会議内容：

当番機関である宇都宮大学総合メディア基盤センター藤原副センター長の司会により，宇都宮大学長及び宇都宮大学総合メディア基盤センター長の挨拶の後，下記のとおり会議を開催した。

1. 文部科学省研究振興局情報課井深学術基盤整備室長より，挨拶を兼ねて学術情報基盤関連の最近の動向等について，以下の説明があった。

（1）文部科学省における平成20年度情報科学技術関連施策について

今回の概算要求においては，基本方針2007を踏まえ，既存の施策等の見直しを図りながら，684億円を要求しているところ。内容については，次世代スーパーコンピュータの開発・利用，e-サイエンス実現のためのシステム統合・連携ソフトウェアの研究開発，イノベーション創出の基盤となるシミュレーションソフトウェアの研究開発及び既存の施策の拡充等である。

(2) 平成20年度概算要求における特別教育研究経費（学術情報基盤関係）について

国立大学法人運営費交付金については、19年度概算要求に引き続き対前年度比1%減と、大変厳しい状況にあるが、各法人における重点事項としての優先順位を尊重するとともに、各法人の自助努力を重視し、また、我が国の学術政策の必要性も勘案した上、要求を行った。

なお、学術情報基盤の整備の支援については、18年3月に取りまとめられた学術情報基盤作業部会報告「学術情報基盤の今後の在り方について」の内容を踏まえて、学内LANの整備（11大学1機構）、大学図書館等における学術資料等の保存設備の整備、貴重資料等の保存・収集等の要求を行った。

(3) 次世代スーパーコンピュータの開発・利用について

次世代スーパーコンピュータプロジェクトは、平成18年度から24年度までの7年間の計画で進められており、長期的な国家戦略をもって取り組むべき国家基幹技術の一つとして位置づけられている重要施策である。

18年度においては、理化学研究所において立地の検討を行い、今年の3月に神戸のポートアイランドに立地することを決定した。19年度においては、今年の6月までに理化学研究所が取りまとめたシステム構成案を文部科学省において評価し、複合汎用システムという構成案をもって、総合科学技術会議の評価を受けたところである。9月13日の総合科学技術会議の評価においては、トータルシステムソフトウェアの開発状況をフォローしつつ、研究開発を推進すべきという評価がなされ、現在、このシステム構成案で、理化学研究所において詳細設計の段階に入っている。

(4) 学術情報基盤作業部会における審議状況について

学術情報基盤作業部会では、学術情報基盤の在り方については、不断の見直しを行う必要があるとの認識のもと、18年3月の報告「学術情報基盤の今後の在り方について」の内容を踏まえ、学術情報基盤を取り巻く状況を把握し、課題を整理するとともに学術情報基盤の整備に関する推進方策の検討を行うこととしている。現在、次世代スーパーコンピュータプロジェクトの本格実施、学術研究の推進体制に関する審議が置かれている状況を踏まえて、当面は、情報基盤センターの今後の在り方、学術情報ネットワークの整備の在り方について、審議を行っている。

(5) 学術研究の推進体制に関するこれまでの審議経過の概要案について

研究環境基盤部会及び学術研究の推進体制に関する作業部会の合同会議が審議を進めている「学術研究の推進体制に関するこれまでの審議経過の概要案」については、今年の6月までの議論をまとめたものであり、今後の議論を深めるためのものという位置づけになっている。当面の予定として、研究環境基盤部会において、大学の執行部や研究所等の先生方の意見を聴取しているところ。その意見等を踏まえ、さらに審議を加えて、来年6月頃に取りまとめる予定である。

第2回国立大学法人情報系センター長会議議事録

(6) 国立大学法人・大学共同利用機関法人方針の改革推進状況（平成18年度）について

本年10月5日開催の国立大学法人評価委員会総会において18年度に係る業務実績評価が実施され、この中で特色のある取り組みがなされた各法人の事例紹介があった。

2. 基調講演

「大学情報基盤及び情報サービスのあり方とセンターの方向性」

宇都宮大学総合メディア基盤センター副センター長永井明教授から、宇都宮大学におけるセンター運営の状況、宇都宮大学総合メディア基盤センターセキュリティポリシーの策定及びISO27001認証取得関係の取り組み等についての紹介を含め、大学情報基盤及び情報サービスのあり方とセンターの方向性について、基調講演が行われた。

3. 議 事

(1) 報告事項

- ① 第2回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議及び第11回学術情報処理研究集会について（島根大学）

島根大学小林総合情報処理センター准教授から、研究交流・連絡会議及び第11回学術情報処理研究集会の開催については、平成19年9月13日及び14日の両日に実施し、1日目は研究交流・連絡会議として45大学73名の参加があり、2日目は学術情報処理研究集会として73名の参加を得て、17件の研究発表がなされた旨の報告があった。

- ② 第19回情報処理センター等担当者技術研究会について（広島大学）

広島大学渡邊情報メディア教育研究センター長から、平成19年9月6日～7日に、参加校として41校、70名の情報処理センター等の技術系職員が参加し、14件の研究発表と活発な意見交換がなされた旨の報告があった。

- ③ センター協議会のメーリングリストについて（電気通信大学）

電気通信大学尾関情報基盤センター長から、前回のセンター長会議で、廃止の方向で了承されたセンター協議会のメーリングリストについては、平成19年7月18日付けで廃止した旨の報告があった。

(2) 議題

- ① 第4回国立大学法人情報系センター協議会総会における平成19年度要望事項の資料化について（横浜国立大学）

横浜国立大学長谷部情報基盤センター長から、資料（国立大学法人情報系センター協議会平成19年度事項（案））に基づき説明及び提案があった。審議の結果、本案に意見等があれば、11月末までに横浜国立大学情報基盤センターへ連絡することとし、承認された。

② 国立大学法人情報系センターの現状と課題について

・SPAMメール対策について

鹿児島大学，神戸大学，山梨大学，帯広畜産大学から現状報告と問題提起があり，茨城大学からセンター関係の教員・技術職員の研究会議における検討，NII に対する要望について意見があった。

・適正なソフトウェア管理について

静岡大学から IT コンプライアンスに関する研究および実績の照会があり，埼玉大学，神戸大学，熊本大学からオープンソースに関する事例紹介があった。

静岡大学八巻総合情報処理センター長から提案のあった，セキュリティ，オープンソースについて検討するための研究会の発足について，静岡大学を中心に進めることを承認した。

・財政的な基盤等について

静岡大学から事例報告があった。

③ 次期開催校について

平成20年度第3回国立大学法人情報系センター研究交流・連絡会議及び第12回学術情報処理研究集会については，高知大学において，平成20年度第3回国立大学法人情報系センター長会議については，大分大学においてそれぞれ開催することが決定された。

議長から閉会が宣言された。

以上